

## 韓国サマープログラムに参加して

北海道教育大学函館校 2年 石川祐香

### はじめに

私が漢城大学サマープログラムに参加しようと思ったきっかけは、まず、韓国の文化に元々興味を抱いていたからです。韓国の音楽やドラマなどに興味があったことと、韓国語を学習していたこともあり、漢城サマープログラムに参加し、韓国の衣食住に触れ、自ら身をもって体験することで、より異文化を理解することができると思いました。また、私は将来、韓国語を使って仕事をしたいと考えています。そのため、現地の学生や街の人々と会話することで雰囲気をつかむことができ、将来につながることができると思い、参加しました。

### 漢城大学での授業

今回のサマープログラムは韓国と日本の二カ国で行われました。日本人は北海道、岡山、京都、山口の4道府県の大学から計11人が参加しました。韓国プログラムの中では、計7回、午前中10時から12時の2時間、日本人の先生によって韓国の地理、経済、文化や韓国語を1時間ずつ学習しました。授業では、韓国の現在の状況や、日本や北朝鮮との問題についても詳しく説明がありました。また、映像資料等を使いながら授業が行われたため、わかりやすく、韓国人と日本人の宗教観からくる考え方や文化の違いを知ることができました。韓国語の授業は、簡単な日常生活の挨拶や、お店で使える単語を会話方式で学習しました。また、今回は、韓国語を学習したことのある生徒が数人いたため、グループに分かれて発音を中心に学習しました。韓国語の授業の際には韓国人のバディーが2人ずつについてネイティブな発音を聞いてまねをするという授業をしました。この授業で、韓国についての知識を増やすことができ、異文化に対する理解が深まりました。

### 韓国での生活と都市の様子

漢城大学では、グローバルビレッジという、留学生専用の寄宿舍があります。私たちもその寄宿舍に2週間過ごしていました。違う大学の生徒と2人や3人で1つの部屋を使っていました。冷蔵庫、電子レンジは部屋にあるため、火を使う料理は作れませんが、温めるものや、お湯を使うものは食べることができます。朝ご飯は各自でしたが、お昼や夜ご飯は参鶏湯やブデチゲなど、様々な韓国料理を食べることができました。寄宿舍の門限は23時です。しかし22時に点検があるため、実際には22時には寄宿舍にいなければなりません。点検後にコンビニなどに行きたい場合は、最終の23時を過ぎなければ行くことができます。ソウルの都市の様子として、印象に残ったのは道路の脇に毎日韓国の国旗が掲げられていたことです。プログラム中の8月15日には光復節があり、一つ一つのお店の中にも国旗が掲げられていました。交通機関に関しては発達していると感じました。私はとくに地下

鉄を多く利用しました。日本よりも地下鉄やバスの値段が安いので、手軽に乗ることができます。タクシーも日本よりも安いので、日本より気軽に乗ることができます。



ビビンバ

### 韓国での文化体験

8月12日に韓国民族村に訪れました。ここでは、韓国の伝統的な踊りや、国楽ビーボーイによるダンスや綱渡りや馬乗りを見ました。その後、韓国の伝統的な韓紙を使った人形を作りました。一人一人個性のある人形を作ることができます。その後は、民族村の中にある遊園地で遊びました。そのあとは、韓国の昔の伝統的な結婚式や家屋の様子を見ることができました。



国楽ビーボーイによる伝統的な舞



民族村の前にて



韓国の伝統韓紙人形



韓紙人形を作っている様子

## 最後に

今回、漢城大学サマープログラムに参加して、韓国について、衣食住のあらゆる面からアプローチすることができました。現地の大学生と交流し、意見を交換し、韓国語で会話することによって自分の可能性が広がったように感じました。また、日本人の他大学の学生とも交流できたことが良かったと思います。今回のプログラムを通して、様々な体験をし、いろいろな人にてあい、意見交換をしていく中でより幅広い視野で物事を考えることができるようになったと感じました。なかなかできない体験も多く、楽しい2週間を過ごすことができました。次回参加しようと考えていたら、是非参加することをおすすめします。



韓国のバディーたちと



修了式にて

